

情報収集分析術指南 論語方式による

「人間は、自分が知っているものも知らないものも、これを探求することができない。というのは、まず、知っていることを探求するということはあるまいだろう。なぜなら、知っているのだし、ひいてはその人には探求の必要がまったくないわけだから。また、知らないことを探求するということもありえないだろう。なぜならその場合は、何を探求すべきかということも知らないはずだから。」

プラトン『メノン』

1 情報収集

1-1 情報とは

「ここで『情報』とは何か、を定義しておこう。『情報』とはノイズの別名である。ノイズをはさんでその両極には、一方に自分にとって自明なあまり情報にさえならない領域、他方に自分にとって疎遠なあまり『認知的不協和』（フェスティンガー）のせいで情報としてひっかからない領域とがある。『情報』とはまったき自明性とまったき異質性の中間領域、そのファジーゾーンにはじめて発生する『意味あるもの』の集合である。」「人は訓練によって『情報』の量を増やすことができる。ひとつは自明性の領域を懐疑と自己批判によって削減することによって。もうひとつは異質性の領域に対して自己の受容性を拡大することによって。」「べつな言い方をしてもよい。『情報』の価値とは自分にとって自明なものと自明でないものとのあいだの落差のことである、と。したがって自明性の世界に生きることで『複雑性の縮減』（ルーマン）をはかっている人々には、当然のことながら『情報』は発生しない。」[上野 1997:55,56]

「瑣末な、つまらないデータは一切、抹殺してしまう方がよいという考え方も当然ありますけれど、そういうデータをいちいち詮索してみてもよいのではないかと思いますね。別に何か発表しようなどという気がなくても、調べるときには徹底的にやるべきです。それで何か副産物がないとも限りませんしね。本を読むにしても、ただ流し読みをするのではなくて、些細なことでも関心をもって読むことですね。」「だから、そういう芯になるものをひとつ見つけさえすれば、関心の方はいくら広く持っていてもいいと思いますね。当面、それでどうこうするというのではなくて、そういう目で見れば、ありとあらゆるもの、世界じゅうの現象が、そこに集まってくるのではないのでしょうか。最近は情報過剰の社会になったせいか、『いらぬことを覚えるのは時間の無駄だから切り捨てる』という人が多いようです。しかし、それには僕は反対なんです。いらぬというのは、どうやって判定するのか、決して簡単ではないでしょう。それよりも『いらぬことでもみんな覚えてしまえ』、この方がよいのじゃありませんかね。」[徳永 1989:192,194]

1-2 統計の探し方

アジア関連国際統計一覧 [末廣 2000:315]

「アジア諸国には『データがない』『あっても使えない』というのは、実のところ研究者の怠慢か言い訳にすぎない。実際は現地語を含め多数のデータが存在するにもかかわらず、データにアクセスする方法を知らないか、アクセスするための努力を惜しんでいるか、そのどちらかであるからだ。さらに収集しえたデータも注意深く検討しないと、思わぬ間違いを犯してしまう。本当に利用可能なデータがない場合には、結局自分で実地調査し、自分で統計を作るしかない。その作業は苦勞が多いが、逆にその作業をなしえた時の充実感は何者にも替えがたいだろう。」[末廣 2000:328]

総務庁統計局統計センター <http://www.stat.go.jp/>

各種統計を Excel ファイルで提供。国際機関統計部や各国政府統計局へのリンクもあり。

『日本統計年鑑』 <http://www.stat.go.jp/data/nenkan/index.htm>

『日本統計月報』 <http://www.stat.go.jp/data/geppou/index.htm>

『世界の統計』 <http://www.stat.go.jp/data/sekai/index.htm>

「労働力調査」(就業状態、就業時間、産業・職業等の就業状況、失業状況など)

「就業構造基本調査」(就業構造の実態、就業異動の実態、就業に関する希望など)

「事業所・企業統計調査」(全事業所・企業対象。産業、従業者規模、開設時期など)

「科学技術研究調査」(研究費、研究関係従事者など)

「家計調査」(家計の毎月収支、年間収入など)

「住宅・土地統計調査」(建物の用途、居室の数・広さ、住宅・土地の保有など)

「社会生活基本調査」(時間の過ごし方、余暇活動の状況など)

「社会・人口統計体系」(地域別統計データを体系的に収集)

首相官邸の統計リンク <http://www.kantei.go.jp/jp/toukei.html>

国民生活基礎調査・人口動態統計(厚生省)、賃金構造基本統計調査(労働省)、学校基本調査(文部省)、犯罪統計(警察庁)、宗教統計調査(文化庁)などにリンク。

統計情報インデックス <http://www2.stat.go.jp/toukeiindex99/>

中央省庁や民間機関の統計に関する刊行物(約 1100 冊)を検索できる。

最近おもしろそうだった統計二つ。

生活保護に関する統計データ集(国立社会保障・人口問題研究所)

<http://www.ipss.go.jp/Japanese/seiho/seiho.html>

2010 年までの産業別・職業別就業者数予測(日本労働研究機構)

<http://www.jil.go.jp/statis/kako/sansyoku/gaiyo.htm>

1-3 そのほかの資料検索法

国会会議録 <http://kokkai.ndl.go.jp/>

総務庁行政情報検索 <http://www.clearing.somucho.go.jp/>

政府刊行物検索 <http://www.gov-book.or.jp/>

東京大学総合図書館国際資料室 <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/undepo/>
国連、EU、OECD などの資料を所蔵。

アジア経済研究所の文献検索 <http://opac.ide.go.jp/search/index.html>
アジア諸国の資料を所蔵。

社会学文献データベース <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jss/database.html>

Journals Navigation <http://www.tandf.co.uk/journals/>

各種英文学術雑誌をダウンロード可能（文学部サーバから入る）

- ・ インターネット利用の小技。yahoo!で関心のある論文名を打ち込んで検索すると、著者や同じ関心をもった研究者のホームページにアクセスできる。執筆中の著作を公開している Stephens の例（<http://www.unc.edu/~jdsteph/index.html>）もある。同じ分野の研究者のメールアドレスを知ることできる。しかし、インターネットも既存社会の延長である。剽窃や匿名の中傷は許されない。

1-4 ひとつの実例

- ・ 卒論 [上村 1995] 執筆時に、AFDC (Aid to Families with Dependent Children , アメリカの生活保護制度、1996 年 8 月に TANF [Temporary Assistance for Needy Families] と改められる) について調べた経験。世帯人数別給付額のデータが知りたい (8 つの家族類型を設定し、日本・フランスと各類型の給付額を比較するため)。これを 6 年ぶりにもう一度やってみる。

《1994 年》

社会保障研究所編『アメリカの社会保障』には古くて不完全なデータしか載っていない
社会保障研究所（当時）の図書室で原資料を探すが見つからない（1994年11月16日）
AFDCの章を執筆した野呂芳明先生（東京学芸大学）に電話（11月16日と17日）
藤田貴恵子先生（元参議院社会労働委員会調査室調査員）に手紙を書く（11月17日）
藤田先生のお宅に押しかけ、著書『アメリカの社会福祉政策』をもらうがデータは古い。
国会図書館で資料を探すことを勧められる（11月22日）
国会図書館の調査立法考査局・法令議会資料室でマイクロフィッシュを閲覧し、1989年のデータを複写（11月25日と12月5日）
米国厚生省に手紙を書いて最新データを請求（11月16日）
最新の1994年データが郵送されてきたのは卒論提出後の1995年2月27日、すでに興味は失せていた。

《2000年》

yahoo!アメリカで「committee+ways+means」を検索

米国下院歳入委員会のホームページ (http://www.house.gov/ways_means/) にアクセス
サーチで「Background Material and Data on Programs」を検索

さらに「TANF」で絞り込み

同書第7章「TEMPORARY ASSISTANCE FOR NEEDY FAMILIES(TANF)」のPDF
ファイルをダウンロード、385ページに最新データ(2000年)があることを確認。この
間、ものの10分!

- ・ しかし、人との出会いも捨てがたい。1994年には、野呂先生と知り合うことができたし、藤田先生の国際政治経済講義や第三次世界大戦の予言も聞くことができた。

1-5 古本屋めぐりと「つんどく」

- ・ 神保町でおすすめなのは、篠村書店、明文堂、崇文堂(古洋書) 100円や200円で、過去の社会科学の遺産を自分のものにできる。最近の収穫例(ワグナー『財政学』1904、クラーク『経済的進歩の諸条件』1945、尾高邦雄『職業と近代社会』1948、福武直『日本農村の社会的性格』1949、コタン『カトリック社会政策』1950など)、インターネットの古本屋もある(海外にも)。古本ではないが、洋書を買うときはAmazonやBlackwell'sで目次や評判を確かめてから買う。ときどき政府刊行物センター(霞ヶ関、大手町)をのぞくのも一興。「つんどく」は悪くない。家に帰れば本棚の奥に丸山眞男がいるということ。

「指導教官の本は買うものですよ」(1993年頃、『地域社会計画と住民生活』が図書館に入っていないことに不平を述べた筆者に対して、助手(当時)の丹邊さんの言葉。)

「買うべきです」(つい先日、「本の読み方」よりも、とても読めないほど大量の本を買うべきかどうかを教えてほしいものだと嘆息した筆者に対して、稲上先生の言葉。)

2 間奏 マニュアル方式か論語方式か

- ・ マニュアル方式(名前も聞いたことがないような著者が書いた無味乾燥な教科書を通して学ぶ)か、論語方式(尊敬する/しない先生や先輩の言葉や後姿を通して学ぶ)か。標準化と非個性化。マニュアル化できる マニュアルに過ぎない マニュアルも知らない。マニュアル方式はマスプロ教育には向くが、ありがたみが薄れる。それよりも「人を通して技を学ぶ」ほうがよいのではないか。大学院はほんとうに重点化されたのか。「基礎演習」の意図せざる結果(予言の自己破壊を期待する)

「第一に、方法は実践のなかにある。それは試行錯誤のなかから発見される。」「第二に、方法は主体的なものであり、個性的なものである。」「第三に、方法は切れ切れのままでも、断片的なままでも役に立つ。」[佐藤 1996a: , ,]

「なおここでいう『方法論』とは、中立的な技術のくみあわせではなく、重要な問題・資料源・社会や歴史に関する広大な仮説・学問の目的といったものの相互関係を意味する」[スコチポル 1984=1995:4]《卵三個を用意してください》から《西部へ進め、若者よ》まで [同:292]

3 データ分析

3-1 ぶあつい記述

高野岩三郎の月島調査 [佐藤 1996b]

「住居に二つ以上の煙突をもっている世帯がアイルランドに約 16000 しかなく、その他の世帯が 180000 をこえている、ということがもし真実ならば、この後者の部類〔…〕世帯でおこなわれている商売がどのようなものであるかは容易に理解されるであろう。…かれらがプロウグと称するくつは、イングランド製のくつ一足のわずか 1/4 の値いしかなく、…（ものの値段の列挙）。…それゆえ、総計 6 人で構成されているこのような一世帯の年々の全支出は、各々一人平均約 52 シリングにすぎないと思われるのである。それゆえ、これらの建物にいる 950000 人の住民は、一年当り 2375000 ポンドをついやすであろう。…」[ペティ『アイルランドの政治的解剖』1676 猪口 1985:105]

「北新庄地区の歴史は古く、代々この地域に住み続けている人が多い。そのことは、Q 2 で「生まれてからずっと住み続けている」と答えた人が 72%を占めるという事実にもあらわれているが、明治 9 年に書かれた「差入申公證之事（小作人連署差入書）」（武生市史編纂委員会編『武生市史資料篇諸家文書(二)』1972 年刊、190 頁）に記載の 16 姓のうち 15 姓までが今回の調査対象者に含まれていること、また、調査対象でこの文書に記載されていない姓は 13 姓（129 名中 22 名）であることから推察される。しかし、住民のほとんどが農業を主な生業にしていた時代と、農外所得が農業所得を上回る世帯が 88%を占める現在とでは、当然ながら地域社会の性格もことなる。旧来の農村共同体は、どのような地域社会に変容したのか。今後、地域社会のどのような性格を、どのような人々が担っていくのか。北新庄地区の将来像について考えてみたい。…」[上村 1997:97]

3-2 概念とその操作化

「物理学が感覚可能なデータから出発してつくられるのではないのと同じく、社会科学は出来事のレベルにもとづいてつくられるのではないことを、マルクスはルソーについて、決定的と思える形で私に教えてくれた。つまり社会科学の目的は、モデルを組み立て、モデルが示す特性とそのモデルが研究室で示すさまざまな作動の仕方を研究し、ついで、こうした観察の結果を、経験的に起こっている事柄の解釈に適用することである。」[レヴィ=ストロース『悲しき熱帯』1956 プルデュー1973=1994:113 に引用]

「おもしろい研究をしたいなら、自分で装置をつくる。買って来た装置でできるものは、研究じゃない」(電子線ホログラフィーの発明者・外村彰博士の言葉、1994.12.11.朝日夕刊)

「マキシム・シャスタンが『心理学者の詭弁』に対して行なった批判は、質問された当の人物たちの置かれた社会状況と社会的位置によって、質問と回答のもつ意味が実際に異なっているという問題を無視する社会学者にもあてはまる。すなわち『自分の視点と研究対象たる子供たちの視点とを混同している学生は、子供たちの視点を採集しているのだと思い込んでいる研究のなかで、自分の視点をせっせと集めるものである[...]。働くことと遊ぶことは同じことですか、仕事と遊びとの間にはどんな違いがありますか』と彼が尋ねたとき、彼の問いのなかで提案される実名詞によって、彼自身が問題にしているらしい大人の区別を子供に押しつけているのである...』。「言語活動の前科学的構成作用 研究者による構成作用であれ、調査対象となる人々による構成作用であれ から解放されるためには、この二つの構成作用のシステムを方法論的に対決させて適切な科学的構成を導くような弁証法を確立しなければならない。」[ブルデュー1973=1994:93,94]

「定量的な情報処理といえども、その核心は定性的な変数のカテゴリー化にある。その過程でたしかにカオスから『情報』は生産されている。だが、自明性の領域でいったんカテゴリー化された変数は、『情報』になりうるかもしれない貴重なノイズを、すべてあらかじめ定義された変数にコード化することを通して『予言の自己成就』を行うに終わる。この方法は情報を『生産』するよりも『縮減』しているのである。定量調査の多くが、かけたコストの大きさに比して『情報』の生産量が少ないのはそのためである。」[上野 1997:58]
それは下手な分析の話(だと思う)

3-3 かつて存在した二分法、今は...

「統計資料に代表される量的データは『たしかだが、おもしろくない』分析に終わる。それに対して、手記や自伝や日記、流行歌や文学作品などの質的データは『おもしろいが、たしかさがない』立論になりがちだ。」[見田宗介『現代日本の精神構造』1965 高坂・与謝野 1998:208]

「今日では、数学とコンピュータ(処理法)の著しい発達により、データと方法との間にはじつに多様な結びつきが展開している。日記や会話をコンピュータの力を借りて量的に処理することも可能であるし、数学の力を借りて質的に処理することも可能である。」「量的方法か質的方法かを単純なかたちで問うことは、かえって無用の混乱と誤解を生みかねないだけでなく、分類そのものが今日ではほとんど風化してしまっているように思われる。」[高坂・与謝野 1998:208,209]

「わたしは定量的な情報を否定しているわけではない。定量的な手法で、わかることとわからないことがある。定量的な情報を扱う研究者は、自分が『定量化できる情報』だけを扱っていること、その外側にその方法では扱えない広大な『経験』の領域があることについて、自覚的であるべきだろう。」[上野 1997:58] 逆も真なり(だと思う)

インタビュー調査については、その道の達人に聞くべし [小池 2000, 佐藤 1992]

3-4 分析の例

「...カトリック信徒の両親が通常その子供にあたえる高等教育の種類はプロテスタントの両親の場合とはっきり異なっている。[...もっとも、親の収入という要因も考慮すべきである...]。しかし、カトリック信徒の大学志望資格者の内部でも、近代的な技術の学習とか商工業を職業とするための準備とか、総じて市民的営利生活向きの学校、たとえば実業高等学校、実業学校、高等小学校等の課程を終了するものの比率はプロテスタントのばあいに比べてはるかに小さいし、また他面、彼らが、教養課程中心の高等学校でほどこされる教育をとくに好むという事実もある。これは、さきに述べたようなやり方〔親の収入仮説〕では説明できない。むしろ、カトリック信徒の資本主義的営利にたずさわることが少ないという事実は、逆にこうしたことから説明されねばならないだろう。」「註(1)1895年にはバーデンの総人口のうち、プロテスタントが37.0%、カトリック信徒が61.3%、ユダヤ人が1.5%だった。ところが、1885-91年に小学校より上の、義務教育に属しない学校の生徒たちの信仰種別は右のとおりだった。」「[ヴェーバー1920=1991:21,22] 論理的には多変量解析したのと同じ。この経験的一般化命題を理解社会学的に説明したのが『プロ倫』ということ(だと思う)。

- ・ ドーア・アルバイトから 部長の年齢(「賃金構造基本統計調査」)
 役員の出身学部(「有価証券報告書」)
- ・ 失業率と福祉国家支持率 [上村 2000]

3-5 二次分析について

SSJデータ・アーカイブ <http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/>

International Social Survey Program(ISSP) <http://www.issp.org/>

日本版 General Social Surveys(JGSS) <http://jgss.daishodai.ac.jp/>

- ・ 二次分析の意義 コスト削減とデータの有効活用、反証可能性の確保、多くの研究者が同じデータを分析することで分析精度が上がる、新たな調査を企画する前に参照することで課題を明確にできる。

だが、注意しなければならない。「一見したところどんなに中立的に見えようと、別の問題設定との関連で集められた資料をひとたび二次的な分析にかけてみるなら、どんなに豊かなデータでも、当初は一つの問いに答えるために、その問いによって作られた以上、その問い以外の問いに対して完全かつ適切に答えることなど決してできないということ、じゅうぶん思い知らされることになる。二次資料を使うのが原則的に妥当か否かを問題にしているのではない。重要なのは、解釈のやり直し作業に、どんな認識論的条件が必要かを思い起こさせることにある。...こうした再解釈の仕事は、デュルケームが『自殺論』ですでに手本を示したものであり、認識論的警戒のまたとないトレーニングになるだろう。」「以上の認識論的前提を無視するなら、同じものを別々に取り扱ったり、異なったものを同一に扱ったり、比較できないものを比較したり、比較できるものを比較し損なったり、

そういう目に遭うことになる。なぜなら、社会学においては最も客観的な『データ』さえ、解読格子（年齢別とか収入別とか）の適用によって得られるのであり、この解読格子は理論的前提を持ち込み、それによって、もっと異なった仕方でも事実を構成したなら把握できたかもしれない情報を逃がしたままにしているからである。」[ブルデュー1973=1994:81,82]

3-6 社会学と統計学

「...社会学でも『ハウ・ツー』ユーザーをなくそう」という運動はある。その意義は十分認める...が、それは同時に「統計オタク」的研究スタイルをも生み出した。あえて戯画的にいえば...統計手法はくわしく勉強しているし、新しい手法を導入するのにも熱心だし、他人の使い方に対する批判も的確なのだが、当人のやっている計量分析はまったく面白くない、その中身はそれこそ統計パッケージの出力結果を正確に言語化しただけ、というタイプである。」「統計の意味がわかる」といった場合の『意味』には、二つの意味があるのである。a) 統計学の論理内在的な「意味」(いわば統計学的論理の一貫性) b) 応用される各学問領域というフィールド上での「意味」(いわば有用性)。「統計学の実践的な意味がわかるためには、a) と b) という二つの意味だけでなく、その二つの意味 = コンテキストのあたえ方の関係まで考えていかなければならない。」[佐藤 1999:183,184]

「社会調査の計量分析では、解析結果をつみ重ねていくにつれて変数の意味がかわっていく。単純化すれば、統計解析にかけたら意外な結果がでてくる 当初想定したのとはちがった解釈をせまられる 変数の意味を変更することで解析結果がより納得的に説明できる 検証のためにさらに統計解析をする 統計解析にかけたら意外な結果がでてくる というプロセスが一般的に起きる。」「見えてくるものはあらかじめわかっているわけではない。だから、このプロセスを収束させるためには、変数の意味の事後確定性に対して開かれているという柔軟さが重要になる。最初に意味を確定して閉じてしまわない、複数の意味がありうるという不確実性にたえつづける そういう心性を必要とする。」[佐藤 1999:210]

「要約すれば、たとえ何かを定義し、測定することができるとしても、.....われわれはいくつかの障害につきあたってしまう。まして、安全とか不安、愛着とか疎外、幸福とか絶望の意味を理解しようとしたり、それらのある特定の政策の中で跡づけようとする場合には、一層の困難が予想される。従って、福祉国家の主要な影響を評価するには多彩な才能が要求されるのである。」[ウィレンスキー1975=1984:189]

文献

- 安藏伸治, 2000, 「公開データによる社会分析の手引き」佐藤ほか編『社会調査の公開データ』
- 石村貞夫, 1998, 『SPSSによる多変量データ解析の手順』東京図書
- 猪口孝, 1985, 『社会科学入門 知的武装のすすめ』中公新書
- ウィレンスキー(下平好博訳), 1975=1984, 『福祉国家と平等 公共支出の構造的・イデオロギー的起源』木鐸社
- 上野千鶴子, 1997, 「わたし のメタ社会学」上野ほか編『現代社会の社会学』岩波書店
- ヴェーバー(大塚久雄訳), 1920=1991, 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫
- 大村平, 1985, 『多変量解析のはなし 複雑さから本質を探る』日科技連
- 上村泰裕, 1995, 「家族の変容と社会政策」(卒業論文)
- 上村泰裕, 1997, 「住民の社会的位置と地域社会の将来イメージ」東京大学文学部社会学研究室編『平場農村の農業と地域生活 武生市北町の実態調査(1995年度調査実習報告書)』
- 上村泰裕, 2000, 「福祉国家は今なお支持されているか ISSP1996年調査による分析」佐藤ほか編『社会調査の公開データ』
- 小池和男, 2000, 『聞きとりの作法』東洋経済新報社
- 高坂健次・与謝野有紀, 1998, 「社会学における方法」高坂健次・厚東洋輔編『講座社会学1理論と方法』東京大学出版会
- 小浜裕久・木村福成, 1996, 『経済論文の作法 勉強の仕方・レポートの書き方』日本評論社(とくに第4章「実証分析とデータ・情報の集め方」。他の章も愉快)
- 古谷野亘, 1988, 『数学が苦手な人のための多変量解析ガイド 調査データのまとめかた』川島書店
- 佐藤郁哉, 1992, 『フィールドワーク 書を持って街へ出よう』新曜社
- 佐藤健二, 1996a, 「都市社会解読の方法とは何か」佐藤編『都市の解読力』勁草書房
- 佐藤健二, 1996b, 「方法を読む 社会調査の水脈をたどりながら」佐藤編『都市の解読力』勁草書房
- 佐藤俊樹, 1999, 「統計の実践的意味を考える 計量分析のエスノメソッド」佐伯胖・松原望編『実践としての統計学』東京大学出版会
- 佐藤博樹・石田浩・池田謙一編, 2000, 『社会調査の公開データ 2次分析への招待』東京大学出版会(12月15日刊行予定)
- 社会保障研究所編, 1989, 『アメリカの社会保障』東京大学出版会
- 末廣昭, 2000, 『キャッチアップ型工業化論 アジア経済の軌跡と展望』名古屋大学出版会(付録「統計の探し方・読み方・作り方」)
- スコチポル編著(小田中直樹訳), 1984=1995, 『歴史社会学の構想と戦略』木鐸社
- 谷岡一郎, 2000, 『「社会調査」のウソ リサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書
- 徳永康元, 1989, 「ハンガリー研究五十年(インタビュー)」『ブダペスト回想』恒文社
- 藤田貴恵子, 1988, 『アメリカの社会福祉政策』横浜市企画財政局都市科学研究室
- ブードン(宮島喬訳), 1969=1970, 『社会学の方法』白水社文庫クセジュ(とくに第2章「定量調査の方法」と第3章「調査の分析における数学的方法」。他の章もためになる)
- ブルデュー, シャンボルドン, パスロン(田原音和・水島和則訳), 1973=1994, 『社会学者のメチエ 認識論上の前提条件』藤原書店
- レイガン(鹿又伸夫監訳), 1990=1993, 『社会科学における比較研究 質的分析と計量的分析の統合にむけて』ミネルヴァ書房
- U.S. House of Representatives, 1989, 2000, *Background Material and Data on Programs within the Jurisdiction of the Committee on Ways and Means*